

令和5年度第1回防災プロジェクト会議

日 時	令和5年7月12日(水) 午後2:00~午後4:00
場 所	アミューあつぎ 603
出席者	(社福) 厚木市社会福祉協議会、あつぎ災害ボランティアネットワーク (特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸 株式会社ハートランド みんなのみらい、(社福) 野百合会、 (社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム、 厚木市障がい福祉課、厚木市障がい者基幹相談支援センター (敬称略)

1. 開会

総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

- ・資料確認（次第、名簿、防災PJ経過資料、事業計画、避難行動要支援者制度概要、避難所受付簿、防災対策チェックリストの検証タイムテーブル、神奈川工科大学ニュースレター）
- ・挨拶
- ・チームリーダー（社福）すぎな会 すぎな会生活ホーム 承認

議事進行（社福）すぎな会 すぎな会生活ホーム

2. 議題

(1) 防災プロジェクト経過報告 基幹相談支援センター

（防災PJ経過資料、事業計画参照）

荻野地区をモデル地区として要配慮者を中心とした避難訓練から令和4年度までと令和5年度の取組み内容について

(2) 防災対策チェックリストの検証について 障がい福祉課

（避難所受付簿、防災対策チェックリストの検証タイムテーブル参照）

災害看護の視点から防災対策チェックリストのロールプレイを行い、どんな使い勝手があるのか、検証することで実際の使い易さがわかると言われた。ロールプレイをプロジェクト委員で行いたい。

予定：9月5日実施

事前準備 ・役割分担

受付役	自治会、民生委員、社協、ボランティア
避難者	知的（みんなのみらい、まゆみ、すぎな会） 精神（レザミ工芸、基幹） 身体（アジト、基幹）
記録	事務局（障がい福祉課）

- ・避難者役の委員は、予め、防災対策チェックリスト及び携帯版を記入して持参。

対象者は、在宅、一人で避難してきた人。意思表示が難しい人。

- ・設営について（事務局で考える）

受付をつくり、養生テープで導線を作る。

流れていける様にセッティング。広スペースと少人数スペース。

当日 会場設営（5分）⇒ 検証（20分）⇒ 反省・感想（20分）

⇒ 避難者役は、防災対策チェックリストを2件分作成し事前にゆいはあとに送る。
（8月25日まで締め切りになるように、案内を送る。）

(3) 神奈川工科大学共催の研修会実施について 基幹相談支援センター

事業計画の3、神奈川工科大学共催による研修会の実施についてを行う予定である。昨年、神奈川工科大学の施設見学と防災チェックリストの記入と講義の3本柱で行ったが、講義は当事者にとっては難しい内容であった。施設見学の時間があまり取れず、不十分であった。今年度は、講義を除いて、施設見学に時間をかけるのと防災対策チェックリストの作成の2本柱でお願いしていこうと思っている。

昨年は、防災プロジェクト委員が所属する当事者を対象にしたが、今年度は神奈川工科大学が荻野地区にあるため、荻野地区に住所がある事業所に、研修会に参加していた

だけるかどうかこれから声掛けしていこうと思っている。

⇒ 障がい福祉課の方で、荻野地区にある事業所に声掛けをした。グループホームは、日中いないので、通所先となる。

意見交換

- ・ みんなのみらいは、厚木市障害者福祉事業所連絡会からの出席であり、初参加。就労Bなので、参加して欲しい。
みんなのみらいとしては、午前中の10時からが良い。
- ・ グループホームは、本体の施設があり防災訓練等に関して、法人内で完結するので、研修参加への興味が少ない。
- ・ 送迎がある就労Bは、送迎や急ぎの作業があると参加が難しい。

(4) その他

- ・ **避難行動要支援者制度**について 障がい福祉課
(避難行動要支援者制度概要参照)

災害発生時に自力で避難することが、困難であり、円滑かつ迅速な非難をするために特に支援が必要な在宅の方で①～⑦の要件に該当する場合、避難行動要支援者として避難支援の対象とする。とある。

厚木市の中では、福祉総務課がとりまとめをしている。対象者①～⑥は障がいの重い方であるが、①～⑥に該当しない方でも、希望される方は、⑦番で比較的広めに受入れるという条件になっている。この対象の方たちは、避難の支援が必要な方たちなので、名簿を作成し、災害時に備えて、各機関に情報を提供している。民生委員や自治会関係者で個別計画を作成している。実際作成した後の現状（更新されているのか、どういう活用をしているのか）はどうなのか。

防災プロジェクトは、自助を目的として防災対策チェックリストを作成している。チェックリストの中にも、近所とか地域の繋がりがあるか、防災訓練に参加しているかなどのチェック項目がある。国、県及び市でも地域包括ケア社会を目指している。障がい者の孤立防止や地域で安心して生活できる地域ネットワークの構築を考えている。災害が起きた時に対応できるように、常時からどの位繋がりがあるか、支援をしている中での困りごとや繋がりの難しさなど次回、自治会の方や民生委員が出席している時に伺いたい。

意見交換

- ・ 昨日から3日間地区の民児協に出席している。小鮎地区は、民生委員が個人的に配慮の必要な方の名簿を作成していて、毎年12月に見守り支えあい事業（人権福祉推進の事業）で防防災グッズを配って、見守り活動をしている。避難行動要支援者名簿にプラスして名簿を作成している。小鮎地区だけで300人。割合は、わからないが、一人暮らしの高齢者に偏ってしまうかと思う。（厚木市社会福祉協議会）

以上